

有井里づくり計画



平成 29 年 10 月

有井里づくり協議会

目 次

1	地区の現況と目標		
	(1) 地区の現状と課題	_____	1ページ
	(2) 計画目標と方針	_____	2
2	里づくり計画		
	(1) 農業振興計画	_____	3
	ア 農地の保全対策	_____	3
	イ 売れる米の栽培	_____	3
	ウ 生産調整への取り組み	_____	3
	エ 新規作物の導入	_____	3
	オ 農機具の過剰投資の回避	_____	3
	(2) 直売所の開設	_____	3
	(3) シルバー事業の検討	_____	3
	(4) 未利用施設の利用	_____	3
3	環境整備計画	_____	4
	(1) 既設企業との連絡調整	_____	4
	(2) ゴミ対策	_____	4
	(3) 長尾公園の適正な管理	_____	4
	(4) 交通安全対策	_____	4
	(5) 防犯対策	_____	4
	(6) 福祉・医療施設の誘導	_____	4
4	土地利用計画	_____	4
	(1) 農村用途区域の指定	_____	4
	(2) 個別的土地利用計画	_____	5
5	景観の保全及び景観形成に関する計画	_____	5
	(1) 農村景観の保全	_____	5
	(2) 歴史的景観の保全と歴史行事の継承	_____	5
6	都市との交流に関する計画	_____	5
	(1) 沿道直売を利用した交流計画	_____	5
	・ 里づくり計画区域図	_____	6
	・ 里づくり計画策定経過	_____	7
	・ 有井里づくり協議会規約	_____	8
	・ 有井里づくり協議会役員名簿	_____	10
	・ 有井里づくり協議会農産物直売部会規約	_____	11
	・ 有井里づくり協議会農産物直売部会会員名簿	_____	13
	[参考資料]		
	有井里づくりに関するアンケート結果集計表	_____	14～24

有井里づくり計画

1 地区の現況と目標

(1) 地区の現況と課題

ア 当地区の区域は、平成10年4月1日設立（市認定平成10年5月13日）された有井里づくり協議会（有井集落）別図の区域とする。

イ 地区の北側は山林を隔てて三田市に隣接している。また、地区内には神戸市立長尾小学校、北区長尾連絡所及び長尾町公園等があり、長尾町の中心的位置の地区である。

ウ 道路網としては、当地区内を東西に主要地方道西脇三田線が通過し、それに交差する北神中央線が南北に走っており、自動車利用による交通便は良い。

エ 一方、鉄道便は自動車で5分の位置に神戸電鉄の「横山駅」が、また、自動車で15分の位置にJR福知山線の「三田駅」があり、近年、複線化により阪神間への足は大変便利になっている。

オ 地区の農業の現況は、2000年の農業センサスによれば、農家人口は94人(1990年101人)、農家戸数は19戸で第1種兼業農家2戸、第2種兼業農家17戸(1990年は農家戸数24戸、専業農家2戸、第1種兼業農家3戸、第2種兼業農家19戸)となっている。

経営面積は1,565a(1990年は1,570a)で1戸当たりの平均経営面積は82a(1990年は65a)となっている。農家が保有している農機具の状況は、トラクターで18台、田植機16台、コンバイン16台と主要農機具は各個人でほとんど装備している。

農機具の更新意向については、トラクターは新規購入希望が50%あるのに対して、コンバインや田植え機は借り入れや作業委託を希望する農家が多い。

カ 次世代を担う農業後継者については、既に農業に従事している農家は1戸、あくまで予定者として同居している農家は8戸、別居は5戸となっている。

キ 当地区の北側の山林には鉄鋼、電気関連企業があるが地域との協調性が乏しいので、里づくりを進める上の懸案となっている。

宅原地区の世帯数及び人口（国勢調査結果）

年	世帯数	人口			人口（5年前からの増減）	備考
		総数	男	女		
1990	203	751	366	385		
1995	679	1,484	789	695	+733	
2000	228	768	347	394	-716	

有井地区の農業の概要（農業センサス）

年	専兼別農家数(戸)				農家人口(戸)	農業従事状態世帯員数(男)			農業従事状態世帯員数(女)		
	総農家数	専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家		自家農業のみ従事	自家農業が主で兼業が従	自家農業が従で兼業が主	自家農業のみ従事	自家農業が主で兼業が従	自家農業が従で兼業が主
1990	24	2	3	19	101	8	0	2 2	1 5	-	1 0
1995	23	2	0	21	96	9	0	2 7	1 4	-	1 2
2000	19	0	2	17	94	8	0	2 5	1 0	1	9

	経営耕地面積(a)				主要作物別収穫面積(a)				家畜飼育戸数・頭数			
	合計	田	畑	樹園地	稲	野菜	花	飼料作物	乳用牛		肉用牛	
									戸数	頭数	戸数	頭数
1990	1,570	1,563	7		1,211	133	96	-	-	-	1	1
1995	1,506	1,496		10	1,251	0	32	-	-	-	-	-
2000	1,565	1,565			828	23	11	-	-	-	-	-

(2) 計画目標と方針

当地区の里づくり計画を策定の目標として

- ア 整備された農地は荒廃させることなく保全に努める。また、山林は緑地として残して置く。
- イ 主要地方道西脇三田線及び北神中央線の道路網の好条件を活かし、あわせて、地域の住民が生き甲斐を感じる里づくり計画を考える。

そのために、農産物直売部会、営農部会及びシルバー部会を設置する。

2 里づくり計画

(1) 農業振興計画

ア 農地の保全対策

ほ場整備によって整備された農地が、不十分な転作対応や労力不足により耕作放棄地となることが予想される。これら未耕作地を無くし、農地を保全していく対策を営農部会が中心となって考える。

イ 売れる米の栽培

労力不足等で粗放栽培化されつつある水稻栽培については、消費者から「安全」、「安心」と喜ばれ、売れる米の生産を目指し栽培技術の向上に努める。

適期防除の徹底及び省力化のための航空共同防除等を検討する。

ウ 生産調整の取り組み

地区外の耕作者等の関係から種々問題もあった中で集団転作を実施した経験がある。

転作と水稻の作付けとは表裏一体をなすものであり、今後はこれまでの個々の転作対応から少しでも有利な転作対応について検討していく。

エ 新規作物の導入

地区内で計画されている直売所の開設に併せて、直売部員を中心として周年的に販売可能な作物の栽培について検討していく。

オ 農機具への過剰投資の回避

農機具への過剰投資については、問題になりつつもその解消が困難となっている。

コンバインや田植機などは新規購入を控えたい希望が多い。そうかと言って、集落単位で機械施設の整備を図ることは規模的にも困難である。

そのため、今後は、農業協同組合や他地区で設立されている営農組合などの受託組織を活用せざるを得ない。

(2) 直売所の開設

主要地方道西脇三田線又は北神中央線の沿道付近に、里づくり計画の一環として農産物直売部会が中心となって直売所の開設を検討する。

(3) シルバー事業の検討

地区内には高齢者が増えてきており、これらの方の生き甲斐となるシルバー事業を地区内関係者で部会を設立して検討する。

(4) 未利用施設の利用

かつて集落が農産物の共同集荷場として利用していた施設が未利用となっている。今後、この施設の有効利用を地区で考える。

3 環境整備対策

当地区の環境については、緑が多く、自然が身近であり、情操教育にも良いとの意見が多い。将来ともにこの環境を保持していくことを基本とする里づくり計画を進める。

一方、交通の便が悪い、医療施設まで遠い、交通事故の危険があるなどの不便さや不安が地区の半数以上の方から意見があることから、これらのことについて実現可能なことから検討する。

(1) 既設企業との連絡調整

既設企業によるため池、河川への汚水・汚泥の排出による環境汚染問題については、関係者と調整するが、さらに定期的な意見交換等の実施によって公害・環境保全の意識を高めて、地域との強調性を高める。

(2) ゴミ対策

ゴミの不法投棄に対しては、看板の設置及び一層の監視を強化して防止に努める。また、クリーン作戦日の設定、ゴミの分別収集を地区住民に周知徹底し、地区内の美化運動を進める。

(3) 長尾町公園の適正な管理

夜間の単車や花火遊びなど、適切でない利用がみられるので、関係機関との調整によって適正管理に努める。

(4) 交通安全対策

近年の交通量の増加にともない、交通事故の危険性の増大が懸念される。小学校が当地区内にあることから、安心して通学できるよう、交通安全対策について関係機関に要請するとともに、お互いに安全について配慮しあう意識を向上させる。

(5) 防犯対策

近隣地の発展に伴って防犯に対する憂慮がある。街路灯の設置について関係機関に要請するとともに、近所付き合いをより緊密にしその予防に努める意識を高める。

(6) 福祉・医療施設の誘導

医療施設がないことの不便さを憂慮している。里山等を利用した特養老人ホーム等の医療施設の誘導を、可能な範囲で図る。

4 土地利用計画

(1) 農村用途区域の指定

当地区にはほ場整備により設定された非農用地区域、農振の面的農用地区域外、三田市と隣接した里山があり、多様な利用が予測される。

共生ゾーン条例実施後、土地利用の変更については、所定の手続きを要件とされているが、これらの認識は、地区外所有者では薄い。

これまでからも里づくり協議会を通じてそれらについて話し合いを重ねてきているが、その対応は不十分であった。

今後は、秩序ある土地利用についてお互いに認識しあうとともに、早期に対応に努める必要がある。ただし、当分の間は、現在の農業保全区域、環境保全区域及び特定用途区域を継続する。

(2) 個別的土地利用計画

点在している、非農地の利用促進を図るとともに、これらの個人的な土地利用については予め里づくり協議会と調整を行う。

5 景観保全及び形成に関する計画

(1) 農村景観の保全

地域内の道路・下水・農地も整備され自然景観にも満足している人も多い。この状態を将来とも乱すことのないようにその保全に努める。

(2) 歴史的景観の保全と歴史行事の継続

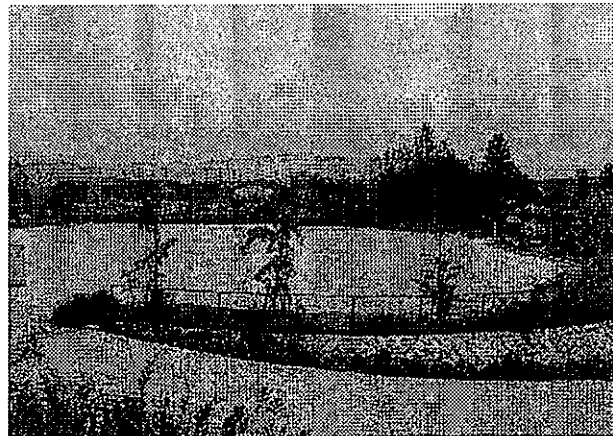
歴史的行事への継続を望む意見が多い。

多聞寺等の歴史的景観を大切にし、毘沙門祭り等の当地区の伝統的行事を守るとともに、地区外からの参加者を募ることを考える。

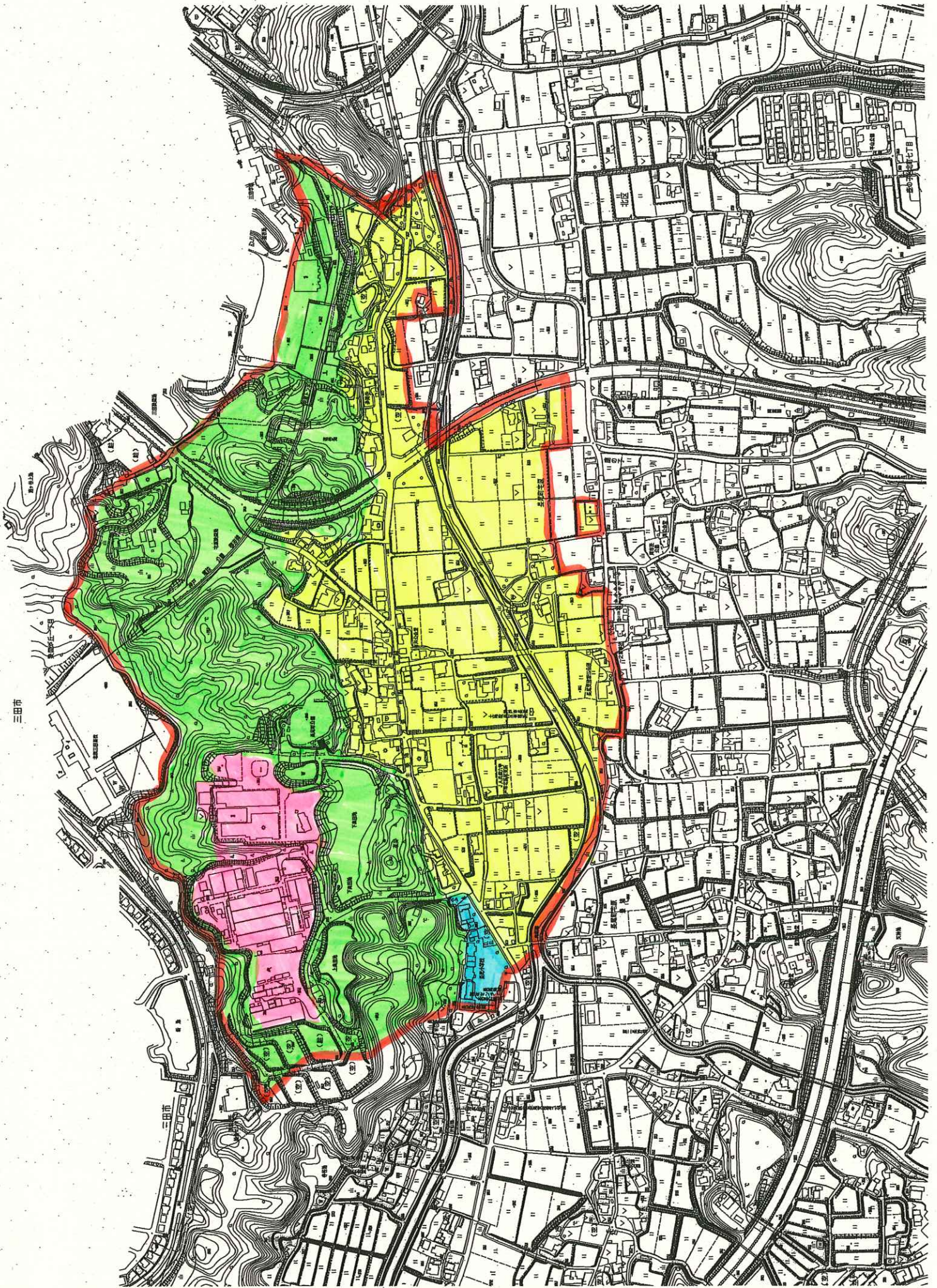
6 都市との交流に関する計画

(1) 沿道直売を利用した交流計画

道路網の有利性を考え、農産物の直売所の開設を検討し、それにあわせて付随したもぎ取り農園等の設置によって都市住民との交流を図る。



長尾町公園



有井里づくり計画策定経過

(里づくり協議会役員会)

助言者：高橋 信正

年 月 日	実 施 内 容	参 集 者
平成15年 10月5日	・里づくり計画の内容について ・里づくり計画の策定について	協議会役員等
平成15年 10月26日	・里づくり計画について	協議会役員等
平成15年 11月1日	・里づくり計画の策定について	協議会役員等
平成15年 11月15日	・高橋教授を迎え里づくり計画策定の活動開始 ・集落の現状把握のため現地調査を実施 ・里づくり計画の策定及び進め方について	協議会役員等
平成15年 12月13日	・里づくり計画の策定について ・アンケート調査について ・営農、直売所部会の設立について	協議会役員等
平成16年 1月25日	・里づくり計画の検討について ・野菜直売・営農部会の設立について	協議会役員等
平成16年 3月14日	・アンケート調査結果について ・里づくり計画(案)のまとめ	協議会役員等
平成16年 7月4日	・里づくり計画の承認(総会)	協議会員

(里づくり協議会農産物直売部会)

年 月 日	実 施 内 容	参 集 者
平成16年 1月24日	・直売部会立ち上げのための準備委員の選出 ・野菜等販売施設、直売所の面積について ・販売商品について	農産物直売所設立委員等
平成16年 3月20日	・直売所設立のための準備、運営について	農産物直売所設立委員等
平成16年 4月4日	・直売所設立のための準備、運営について	農産物直売所設立委員等
平成16年 4月17日	・借用地の地目変更について ・補助金について ・テント、看板、幟旗等の施設について ・販売方法、ラベル表示等について	農産物直売所設立委員等
平成16年 5月22日	・直売所の見直しについて	農産物直売所設立委員等

(里づくり協議会営農部会)

年 月 日	実 施 内 容	参 集 者
平成16年 1月11日	・4名の委員選出(桂正 弘, 久保洋二, 内垣正之, 有井宣明) ・活動内容について検討を行う。	営農部会委員等
平成16年 1月21日	・休耕田の防止のための協力体制について ・リモコンヘリによる水稲の一斉防除について ・旨い米作りを目標にして、各講習会に参加し栽培技術の向上を目指す。 ・農産物直売部会との販売面の連携について ・農機具の共同作業は人員不足により取り止め今後の検討課題とする。	営農部会委員等

[参 考 资 料]

アンケート集計 回答47 (農家23 非農家24) 配付55 回収率 85%

回答者について

回答者の家族構成

項目	問1 性別 (戸)		問2 年代別 (戸)			
	男	女	30	40	50	60
農家	21	2			13	10
非農家	13	11	2	5	4	13
計	34	13	2	5	17	23
率(%)	72	28	5	10	36	49

項目	問3 家族人数 (人)	
	農家	88
非農家	84	(49%)
計	172	(100%)

里づくり協議会に関する設問

項目	問5 協議会の認識度					問6 会合への参加の難易						問7 住み心地								
	知らない	知る	村	家族	隣人	無回答	有	易	やや易	普通	やや難	難	無	無回答	大満足	満足	普通	やや不満	不満	無回答
農家	3	19	16	1	1	1	15	8	3	1	1	1	5	3	1	15	4	1	1	1
非農家	7	15	11	1	1	2	7	3	3		1	1	14	3	1	6	10	2	1	4
計	10	34	27	2	2	3	22	11	6	1	2	1	19	6	2	21	14	3	2	5
率(%)	21	72				7	47						40	13	4	45	30	7	4	10

項目	問8 行事への参加意思					問9 若者流失の憂い度				問10 人間関係					問11 計画策定の必要性				
	積極的	参加	不参加	無意思	無回答	有	無	不明	無回答	大変良	良い	普通	悪い	大変悪	無回答	必要	不必要	不明	無回答
農家	8	13	2			17	3	3		1	10	7	5		13	8			2
非農家	6	11	1	4	2	12	6	5	1		8	10	4		2	6	1	12	5
計	14	24	3	4	2	29	9	8	1	1	18	17	9	2	19	9	12	7	
率(%)	30	51	6	8	5	62	19	17	2	3	38	36	19	4	40	19	26	15	

14

項目	問12 里づくり計画への参画度					問13 責任者として任命された時の態度					問15 会合への参加認識					問16 直売所の利用		
	積極	日和見	意思無	不明	無回答	積極的	忸い	拒否	不明	無回答	積極的	参加	不参加	不明	無回答	利用	不利用	無回答
農家	5	9	4	4	1	5	9	4	4	1	3	16	4			10	8	5
非農家	4	4	6	6	4	4	4	6	6	4	1	11	2	8	2	22	1	1
計	9	13	10	10	5	9	13	10	10	5	4	27	6	8	2	32	9	6
率(%)	19	28	21	21	11	19	28	21	21	11	9	57	13	17	4	68	19	13

項目	問17 高齢者事業の実施についての認識			
	本人参加	家族参加	60才以上有る世帯	同人数
農家	8	5	16	21人
非農家	7	6	17	20人
計	15	11	33	41人
率(%)	対全世帯 70			対全人数 24

生活環境に関する設問

現生活環境意識	思う		やや思う		どちらでもない		やや思わない		思わない		計										
	農	非計	農	非計	農	非計	農	非計	農	非計											
1 緑が多い	10	11	22	47	8	7	15	32	1	1	2	4	3	3	6	13	1	1	2	46	
2 自然が身近	9	10	19	40	5	11	16	34	2	1	2	4	5	1	6	13				43	
3 生物と共生	5	8	13	28	5	7	12	26	2	1	3	6	5	5	10	21	1	1	2	4	40
4 情操教育良環境	6	5	11	23	3	12	15	31	6	3	9	19	4	2	6	13				41	
5 新鮮野菜の提供	6	8	14	30	9	6	15	31	1	5	6	13	3	3	6	13	2		2	4	43
6 耕作希望	6	2	8	17	4	8	12	26	4	4	8	17	3	4	7	15		4	4	9	39
7 不耕作地見苦しい	10	5	15	32	7	6	13	28	1	7	8	17	1	4	5	11	2	1	3	6	44
8 農家所得の場	2	3	5	11	4	6	10	21	2	6	8	17	5	1	6	13	5	1	6	13	35
9 虫・蛇が嫌	4	2	6	13	2	1	3	6	5	3	8	17	5	10	15	31	3	4	7	15	39
10 水路危険	2	1	3	6	5	4	9	19	2	1	3	6	6	10	16	34	3	4	7	15	38

(率は全体戸数47戸に対して)

問19 将来の環境希望	思う		やや思う		どちらでもない		やや思わない		思わない		計		
	農	非	計	率(%)	農	非	計	率(%)	農	非		計	率(%)
1 農地は保全	8	12	20	42	8	4	12	26	2	2	4	8	40
2 山林は緑地保全	9	14	23	48	5	3	8	17	2	1	3	6	37
3 不利用農地転用	8	5	13	28	3	4	7	15	1	4	5	11	38
4 山林開発	3	1	4	8	2	1	3	6	3	2	5	11	38

(率は全体戸数47戸に対して)

問20 現環境の不便や不安	農	非	計	率(%)
1 交通不便	6	15	21	45
2 道路不整備	2	1	3	6
3 農道不整備	1	2	3	6
4 買い物不便	8	11	19	40
5 医療施設不便	13	12	25	53
6 学校が遠い	9	4	13	28
7 不法投棄	14	8	22	47
8 防火施設不十分	1	2	3	6
9 交通事故危険性	14	7	21	45
10 街路灯少ない	7	9	16	34
11 害虫ネズミ多い	9	4	13	28
12 騒音気になる	7	9	16	34
13 娯楽施設少ない	2	5	7	14
14 文化施設少ない	11	11	22	47
15 子供の遊び場	4	4	8	17
16 川池管理不十分	7	3	10	21

(率は全体戸数47戸に対して)

土地の所有についての設問

項目	問21 土地の所有状況					問22 他目的利用希望
	農地	宅地	雑種地	山林	その他	
農家	22	22	12	13		2
非農家	5	14	3	4	1	2
計	27	36	15	17	1	4
率(%)	57	77	32	36	2	8

(率は全体戸数47戸に対して)

農家についての設問

項目	問24 収入先 (複数回答)						問25 収入内訳		問26 後継者の有無					
	農業	自営	常勤	年金	その他	無回答	農<農	無<無	既従事	予定同居	予定別居	未定	無	無回答
戸数	11	1	12	3	1		19	4	1	8	5	3	2	4
率(%)	39	4	43	10	4		82	18	4	35	22	13	9	17

項目	問28 経営上の問題点 (複数回答)							問29 将来の経営の方向						
	労力不足	後継者不足	機械過剰投資	米調整	転作	価格		現状維持	とがら	不明	拡大(借)	縮小	貸農園	無回答
戸数	3	4	12	12	8	9		2	13	1	1	1	1	4
率(%)	7	8	25	25	16	19		9	57	4	4	4	4	18

農業機械の更新意向	問31 新規購入		共同購入		借り入れ		委託		買わない		その他		計
	戸数	率	戸数	率	戸数	率	戸数	率	戸数	率	戸数	率	
トラクター	10	55	1	6	2	11	3	17	2	11			18
田植機	4	25	2	12	3	19	5	31	2	13			16
コンバイン	5	31			3	19	6	37	2	13			16
乾燥機	1	8					9	64	2	14	2	14	14
籾摺機	2	14					9	64	2	14	1	8	14
トラック	9	64			2	14	1	8	2	14			14

(率は機械ごとの回答者に対して%)

項目	問34 現受託農家 田植	
戸数	1戸	70a

問32 現委託先の状況		現委託作業内容と量	
集落内農家	1戸	耕起	2戸 130a
集落外農家	4	田植	3 175a
受託組織	1	刈取	3 176a
計	6	籾摺	5 350a
現委託率(%)	26	(率は全農家23戸に対して)	

問33 今後の委託希望先		委託希望作業内容			
集落内農家	1戸	耕起	2戸	防除	4戸
集落内組織	6	育苗	3	刈取	7
集落外農家	2	田植	5	乾燥	6
集落外組織	1	施肥	3		
計	10				
委託希望率(%)	43	(率は全農家23戸に対して)			

項目	問35 営農組織の必要度					問36 共同防除		
	必要	ときどき必要	不必要	不明	無回答	参加	不参加	無回答
戸数	4	3	9	2	5	9	8	6
率(%)	17	13	39	9	22	39	35	26

項目	問37 有利な転作対応参加			問37-2 右参加の内集落営農方式		
	不参加	参加	無回答	参加	条件次第	無回答
戸数	6	11	6	5	4	2
率(%)	26	48	26			

項目	問38 直売参加度		
	参加	不参加	無回答
戸数	8	10	5
率(%)	35	43	22

アンケートの意見

○は非農家の意見 ×は否定的意見

問 6 協議会への参加について

気心が判っている

自分自身が里づくりについて何かを行いたいという強い気持ちがないため ×

近所の人で顔見知りである

問 7 有井地区の満足度

米や野菜が自給できる

緑も多く交通の便も良い

農業経営が順調に行かない。若者が出ていく傾向にある

自然が残されており、買い物も10分程度の距離に店が多数ある

通勤時間・高速道・下水道が整備されて良い環境下にある

○生まれ育った所だから

○自然に囲まれ、都心から離れている

○交通量の増加による騒音 ×

○病院・診療所等がない ×

○先祖の墓があり宅地もあり、長年住んでいる

問 8 伝統行事等の参加について

祭りや行事は郷土の誇りで将来に受け継いでいくべきだ

昔からの文化を守っていきたい

子供が喜ぶから

○先代の皆さんの美を残したい。若年層に純の気持ちを伝えたい

○古くから多くの人達に守られ支えられた行事をこれからも発展させていきたい

○長年住んでいる

問 9 将来の若者の流出の理由

同居すべき部屋が無い

子供と同居しない家が増えている

医療・交通・学校が無く、将来は廃校になる

住宅地（分家住宅を含めて）が無い

農業の不振

我が子も流出している

家族制度が崩れて若者が共に住まない

小学校の児童数が少なくなってきた

集落の行事ができなくなった

通勤圏1時間程度の地域で若者が流出していくことがない

生活優先

- 高齢化と少子化
- 子供をあまり見かけない
- 死活問題。農業より兼業がウエイト
- 市街化調整区域で家庭数が増えないから
- 他県に仕事に出る
- 農業だけでは生活できないため
- 就職・結婚を機会に出ていく
- 地域産業が無い
- 働く場所が無い
- 若夫婦との別居生活の世帯が多い
- 農地が少なく住むのに不便

問 10 人間関係について

里づくり・行事等参加が少なく、積極的でない ×

会合・行事等にいつも同じ人しか来ない ×

住民集会（月の常会）葬儀での助け合い・町内会旅行・ゴルフコンペ等により親睦がもたれている。

毎月常会を行い意見交換をしているから

会合に出席する機会がないので判らない ×

常会ではよく話し合いがされているが、普段は挨拶程度であり話さない ×

行事等で人の集まりが少ない ×

○古くから住む人と新しく住んだ人などの人間関係が複雑 ×

問 11 里づくり計画の策定について望もの

遊休地の利用

直売所

環境の維持と活気のある村づくりのために、商業施設（道の駅） 住宅地・特養施設・貸し農園
などが活力剤の一環として必要

高齢化に向けたシステムづくり

農耕・生産の会社のようなものが欲しい

農業経営が苦しくなっているから

住みやすい集落にする

環境保全事項

乱開発がなくなり地域にとって良いことも、規制の強化によって自然的な開発が抑制される。大
きな視野にたつとマイナス面が多いと感じる。 ×

農業縮小したい者にとっては里づくりがやっかいな問題となる ×

里づくり協議会のことを知らない ×

○現在の居住環境に満足している ×

○地域の人と交流したことがないので判らない ×

○自然・景観保全

○高齢者が有意義に過ごせる施設。気軽に行ける「いこいの家」のようなもの

○有井地区住民の意見がまとまって初めて里づくりができる ×

○現在でも住みやすい ×

問 12 里づくり計画への参画について

将来の土地の有効利用と環境保全のため

有井地区が活性化したいため

内容的にわからない ×

自分自身の将来生活に影響するから ×

○現状に余裕がない ×

○借家住まいだからわからない ×

年齢・健康状態に合うことなら参加したい

市の一方的な考えで作った協議会だから ×

問 13 責任者に任命されたら

将来の有効な土地利用

有井地区が取り残されないために

社会参加により生きがいを見つけない

都会の流れに押し流される地域性のため大変難しい ×

農機具を持たない小規模の農家だから、実務的な奉仕ができない ×

地域の事情がわからず、年齢的に無理 ×

問 14 里づくり計画できる事項

土地の提供 ・ 労力の提供

直売所の設置と営農部会の設立

協議会には出席する

時間的余裕ができたならなんでも協力したい

高齢化地域におけるボランティア活動支援

協力したいが年齢的に難しい ×

総会に出席して意見をのべること

町づくりに関して素人であり、里づくり計画そのものを疑問視している ×

個人の開発等に里づくり協議会の賛同を得られないことを心配する ×

時間的余裕があれば、できることなら協力できる

アイデアとか人脈の提供

可能なかぎりの人的・物的な協力

常会にいつも出席する

自分でできることは参加する

地域住民が前向きにまとめれば自分のできることは発揮し易い

問 15 里づくり計画会合の参加について

里づくり計画の推進

○地域のことをよく知っていない ×

問 16 直売所の利用について

塩乾物、肉・豆腐を販売してほしい

近くにスーパーがあり、農産物の供給が難しいのではないかと ×

問 17 生きがいの事業について

月に1・2回位なら生きがいを求めたい

問 18 生活環境について

幹線が地域を分断したので地区のまとまりが悪くなった（人間関係でなく）

耕地生産がうまくいくような手だてがあれば、うまくいくのではないかと

自然が破壊されている。農薬の使い方を学習し考えるべきだ。とんぼ・ほたるの飛び交う自然に戻す活動が必要。夏の川草刈りなどをその点考慮し最小限にすべきだ。

問 19 今後の土地利用について

現在のように荒れた山林でなく手入れされた山林を保存しながら山林と調和した活用を行う（遊歩道・自然の森公園等）

現況の整備我々うまくいくよう将来の不安を取り除くこと

○農薬・殺虫剤を使いすぎる

問 20 現在不便・不安を感じていること

防犯が悪い

老人施設の建築を希望し、その施設に地域の者が自由に入所できるようにして欲しい

○防犯灯の設置を積極的に増やして欲しい

○長尾公園で夏夜遅くまで若者が花火をやっている。花火が飛んでくる。単車の音で騒がしくなる。

○駐在所が遠くて夜が不安

問 35 集落営農組織が必要なとき

故障したとき

小規模農家では機械の購入維持は困難

過去にながく続かなかった。現在は勤務が多忙で営農組織による座業は無理

問 36 共同防除について

稲を倒伏させる ×

経費が高くつく ×

高齢者である ×

出穂期前の一斉防除は効果が高く低価格になる。借り上げのリモコンヘリの防除が良い、一斉防除は必要

問 37 転作について

耕作面積が少ないため ×

高齢で農作業ができない ×

とりまとめる指導者がいない ×

以前の集団転作は有利でなかった。農業をダメにする転作制度は廃止すべきだ。×

その他の意見

生活の大半が会社等にあり、効率的に所得が得られていること

時間的なゆとりがないため、農業土地活用等に新たなことに目が向かない

里づくりは定年後の第二の人生設計の対象として考えるしかない

まずは積極的に少人数でも始めることが専決問題である

ことをなせば何事も成る。理論は二のつぎで決断が必要

5 から10年後、若い力が少なくなることが大変

農業経営をなんとか工夫しないと将来展望が無くなると危惧する。何らかの形で参加協力したいと痛感しているが、時間と農機具が無く力になれない。何か協力したいことがあればやりたい。